

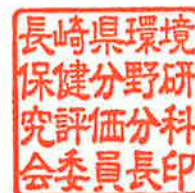
平成30年度
長崎県研究事業評価委員会
環境保健分野研究評価分科会
報 告 書

平成30年9月14日

長崎県研究事業評価委員会環境保健分野研究評価分科会は、「長崎県政策評価条例」、「政策評価に関する基本方針」にもとづき、長崎県研究事業評価委員会委員長から依頼があった研究内容について調査・審議を行なったので、次のとおり報告するとともに、意見を申し述べる。

平成30年9月14日

長崎県研究事業評価委員会
環境保健分野研究評価分科会
委員長 山下 樹三裕



1. 評価日および場所

平成30年9月6日（木） 於：大波止ビル

2. 審議案件（2件）

經常研究：事前評価1件、事後評価1件

3. 分科会委員

氏名	役職	備考
山下 樹三裕	長崎大学大学院水産・環境科学総合研究科 教授・環境科学部長	委員長
澤井 照光	長崎大学生命医科学域 教授・保健学科長	副委員長
大村 友章	三菱重工業株式会社 総合研究所 化学研究部長	
黒田 直敬	長崎大学生命医科学域 教授・薬学部長	
坂井 秀之	協和機電工業株式会社 代表取締役会長	
松永 淳一郎	公益社団法人 長崎県食品衛生協会 理事検査部長	

4. 総合評価

総合評価の段階は、下表のとおりであった。

評価対象		総合評価※				課題数
種類	時点	S	A	B	C	
経常研究	事前		1			1
	事後		1			1

※総合評価の段階

(事前評価)

- S＝積極的に推進すべきである
- A＝概ね妥当である
- B＝計画の再検討が必要である
- C＝不相当であり採択すべきでない

(事後評価)

- S＝計画以上の成果を上げた
- A＝概ね計画を達成した
- B＝一部に成果があった
- C＝成果が認められなかった

研究テーマ別評価一覧表

種類	時点	研究テーマ名	研究機関	総合評価	
				機関長 自己評価	分科会 評価
経常	事前	国際感染症対策としての技術交流モデルの構築	環境保健 研究セン ター	A	A
	事後	内部生産低減による淡水系閉鎖性水域の水質浄化に関する研究		A	A

5. 研究テーマ別コメント

(1) 経常研究（事前）

○「国際感染症対策としての技術交流モデルの構築」

研究概要：将来的な国際流動人口の増加により懸念される感染症対策の一環として、長崎県と福建省の地方衛生研究所で国際感染症・公衆衛生分野における技術交流モデルを構築する。テーマとして実効性の高いレジオネラ感染症を選択し、生活環境中の汚染調査や国際比較に基づく分子疫学解析を実施する。

必要性：中国からの観光客が増加する中で、レジオネラ症を対象として分子疫学解析等のノウハウを持つ中国福建省疾病予防管理センター（CDC）と技術交流モデルを構築することは、近年レジオネラ症の罹患率が増加し死亡例も発生している本県にとって、重要な取組である。

効率性：福建省CDCとの研究連携協定のもとで計画策定されており、レジオネラ症に対する双方の分析技術や調査実績における補完性が高いことから、効率的な研究が期待できる。レジオネラ汚染実態調査にあたっては、現地の状態や研究の対象とする検体採取予定施設について、実施前に十分に調査、検討してほしい。

有効性：双方の技術を組み合わせることで、迅速かつ簡便なレジオネラ感染源の究明に有効な手法となることが期待できる。また、調査結果を共有し、解析能力を向上させることは、双方の学術連携体制の強化にも有効である。

総合評価：技術交流によって構築した手法を活用し、県内のレジオネラ汚染の実態を把握することは、研究交流としての側面のみならず、感染症対策としても妥当な研究であると考えられる。調査結果については、レジオネラ症を含めた感染症予防に結びつけてほしい。

(2) 経常研究 (事後)

○「内部生産低減による淡水系閉鎖性水域の水質浄化に関する研究」

研究概要：諫早湾干拓調整池（調整池）における内部生産と難分解性溶存有機物の実態を把握し、淡水性二枚貝（イケチョウガイ、ニセマツカサガイ、マシジミ等）による効率的な水質浄化手法の確立を目指す。

必要性：調整池の水質は長期にわたり環境基準を超過しており、淡水性二枚貝を応用した水質浄化に関する本研究は、周辺地域の環境保全・生態系の維持のためにも重要であり必要性の高い研究であった。

効率性：小型のマシジミやニセマツカサガイは流失によって成長・生残の評価を行うことができていないが、三種の淡水性二枚貝の水質浄化能を評価し、他の研究機関との連携により調整池の難分解性有機物特性を明らかにしたことから、ほぼ計画通りに進捗したと考えられる。

有効性：調整池での飼育に適した二枚貝が選定できたことや、調整池における難分解性有機物の実態を明らかにし、淡水性二枚貝が難分解性有機物を除去・低減する可能性を示したことなど、有益な知見を得ることができた。今後の実用化に向けては、二枚貝の生残率向上のための波浪軽減手法の開発や、二枚貝の水質浄化効果を定量的に見積もるなど、さらなる検討が必要である。

総合評価：二枚貝による調整池の水質浄化の実用化に向けた課題は残っているが、難分解性の懸濁態有機物の除去に淡水性二枚貝が有効であることが確認され、その地蒔き放流による水質改善の可能性が示されたことから、概ね計画を達成したのと考えられる。

6. 分科会総評

- 2件の研究テーマはいずれも県民にとって非常に興味深く、重要な研究課題であるが、環境保健分野には他にも様々な課題があると考えられるので、それらの課題を抽出し、研究につなげていただきたい。
- 県の研究機関として、研究成果の県民への還元を見据え、研究に取り組んでほしい。そのためにも、関連する行政部署との関係を密にしながら、行政施策を考えるうえでのベースを作るといった観点から研究を進めていただきたい。
- 経常研究のうち、途中評価を受けないものについても研究途中における進捗管理を適宜、適切に行うとともに、得られた結果は関係する部署とも共有し、県民の安全・安心につながるような研究成果の活用につなげていただきたい。

(参考) 環境保健分野研究評価分科会評価一覧表

時点	課 題 名	視 点	評価
事前	国際感染症対策としての技術交流モデルの構築	必 要 性	A
		効 率 性	A
		有 効 性	A
		総合評価	A
事後	内部生産低減による淡水系閉鎖性水域の水質浄化に関する研究	必 要 性	S
		効 率 性	A
		有 効 性	A
		総合評価	A